

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 20年度2月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 20年度3月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、1998年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

2008年4月、市民にわかりやすくかつ迅速な情報提供を目指して、リニューアルを行いました。

今回は、2009年2月のアクセス件数、アクセス順位及び2009年3月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については行政運営調整局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (2009年2月)

2009年2月の総アクセス数は、136,626件でした。主な内訳は、感染症55.9%、食品衛生18.8%、保健情報8.8%、検査情報月報3.0%、生活環境衛生1.6%、薬事1.6%でした。

(2) アクセス順位 (2009年2月)

2月のアクセス順位(表1)は、第1位が「マイコプラズマ肺炎について」、2位が「ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について」、3位が「英字略語集(ABC順)」でした。

国立感染症情報センターによると、2008年末からマイコプラズマ肺炎の報告数の増加がみられ、2009年第13週(3月23日～3月29日)までの報告では、第9週以降増加が続いており、過去5年間の同時期と比較すると、やや多い傾向で推移しています。

2位に「ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について」が入りました。2008年12月19日から、日本でもHibワクチンが発売開始となり、2009年1月からアクセス数が増加しています。

2008年の感染症発生動向調査によると、全国500の基点定点から報告された細菌性髄膜炎の患者は410人で、全国で年間500～600人(2か月～5歳児の1/2000)と推定されています。

患者の年齢は0歳代が25%と最も多く、0～1歳で48%を占めています。5歳以上になるとインフルエンザ菌に対する抵抗力が作られるため、発病はまれになります。

死亡は約5%(20人に1人)で、20～30%にてんかん、難聴、発育障害などの後遺症を残します。

初期症状は発熱、嘔吐、元気が無いなど、かぜ症状と変わりなく、早期診断が困難で、しかも急速に病状は進行します。

2000年以降、Hib髄膜炎の治療薬アンピシリン(ABPC)だけでなく、セフトラキス(CTX)にも抵抗性を持つ、ラクタマーゼ非産生アンピシリン耐性(BLNAR)などの耐性菌の増加や、病状の進行が早いために、抗生剤治療が困難になっています。

表1 2009年2月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	マイコプラズマ肺炎について	5,713
2	ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について	5,158
3	英字略語集(ABC順)	2,090
4	大麻(マリファナ)について	2,006
5	インフルエンザについて	1,874
6	感染症発生状況	1,855
7	電子パンフレット(MRSA)	1,754
8	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	1,734
9	ライノウイルスについて	1,722
10	百日咳について	1,721

データ提供:行政運営調整局IT活用推進課

このような状況下で、2007年1月26日、Hibワクチン(アクトヒブ)がようやく厚生労働省によって、製造販売が承認されました。

< 諸外国におけるHibワクチンの効果 >

アメリカにおける髄膜炎患者は、1980年15,000人から1995年には86人に、死亡者は500人から5人に激減しました(1990年からアメリカで接種が開始されました)。

一方ヨーロッパでも、ドイツではHib髄膜炎の5歳未満の人口10万人あたりの罹患率がワクチン導入前(1991年以前)の23から、ワクチン導入後(1992～1993年)には1.9に、オランダでもワクチン導入前(1992年以前)の22が、ワクチン導入後(1992～1993年)には0.6まで劇的に減少しています。

世界保健機関(WHO)でも1998年に、乳児への定期接種を推奨する声明を出しています。その結果、Hibワクチンは世界中で100か国以上が導入し、92か国で定期接種されています。そして、Hibワクチンが導入された国々では、Hib髄膜炎はほぼ根絶されています。

< Hibワクチン接種費用 >

Hibワクチンが2008年12月19日より発売されましたが、任意接種のため、料金がかかります。

Hib髄膜炎の深刻さ、Hibワクチンの有効性を考えれば、一刻も早く定期接種化または費用負担軽減などの対策が望まれます。

Hibワクチンの接種費用を助成する自治体が増えており、鹿児島市や東京都渋谷区など少なくとも全国14市区町村が助成制度を開始しています。

(3) 電子メールによる問い合わせ (2009年3月)

2009年3月にホームページのお問合わせフォームを通していただいた電子メールによる問い合わせの合計は、2件でした(表2)。

表2 2009年3月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
B群連鎖球菌について	1	衛生研究所
研究所の所報の電子公開について	1	衛生研究所

2 追加・更新記事 (2009年3月)

2009年3月に追加・更新した主な記事は、10件でした(表3)。

表3 2009年3月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
3月9日	水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について	更新
3月9日	調査研究・試験検査機関のあり方に関する報告書	追加
3月11日	感染症に気をつけよう(3月号)	追加
3月13日	英字略語集(ABC順)	更新
3月13日	セラチア菌による院内感染、日和見(ひよりみ)感染について	更新
3月26日	横浜市における麻しん患者届出状況 (2009年)	更新
3月27日	学校感染症について	更新
3月27日	学校保健安全法について	追加
3月27日	横浜市インフルエンザ等流行情報 11号	追加
3月31日	高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況	更新

【 感染症・疫学情報課 】